

日本のことを伝えよう 第1回



今回のお題
日本人の
こころ

さて、いよいよ始まりました「江口裕之の日本のことを伝えよう」。普段当たり前のように接している日本の文化や習慣について、日本に興味がある外国人に英語で伝えてみましょう。

1. Why do the Japanese tend to avoid saying "No"?

The Japanese tend to form closely-knit communities, where maintaining harmonious interpersonal relationships is of utmost importance. Refusing or rejecting something by flatly saying "No." can disrupt such harmony, and is often seen to be inconsiderate. Instead, the Japanese might say, "That's difficult." or "I'll think about it." for the sake of politeness. Such responses might be ambiguous for non-Japanese, but for the Japanese they are an indication of refusal or rejection.

2. What does "senpai" mean? Why do the Japanese avoid using real names?

"Senpai" means "senior." It basically refers to someone older than you, but it also refers to those who started something earlier than you. They're probably more knowledgeable about it, so using "senpai" shows your respect. In Japan, respecting people of higher status is important. Addressing someone by their name suggests they're of equal status, which could be taken as offensive. That's why people use the term "senpai." This is true of office workers. They rarely address their superiors by their name but instead use their title.

3. What is "omotenashi"?

"Omotenashi" refers to the Japanese way of showing hospitality. The idea is well reflected in the spirit of the tea ceremony, in which the host takes all possible means to entertain the guest while the guest leaves everything up to the host. In this regard, "omotenashi" is based on strong bonds of mutual trust between the host and the guest.

4. Why do the Japanese tend to hide their emotions?

Partly because the Japanese are relatively homogeneous, their communication styles became highly sophisticated, placing high value on indirectness. As a result, the Japanese tend to think being direct and frank lacks courtesy and refinement. Instead, they prefer to keep their true emotions hidden or leave their true opinions or intentions unsaid, which is thought to be a sign of maturity.

1. 日本人はどうして "No" とはっきり言わないの?

日本は、海や山が豊かな自然の幸をもたらしてくれますが、その反面、災害や疫病などの危険が多い国でもあります。国土の恩恵にあやかりながら、安全・平和に生活していくためには、地域住民の結束が必要でした。固い絆で結ばれた社会で最も大切なのは、調和の取れた人間関係を維持することです。No ときっぱり断ると、その調和を乱す可能性があり、思慮深さに欠けると日本人は考えます。そこで、相手に配慮して、「難しいですね」や「考えておきます」などと述べて、暗に断ることが多いのです。しかし、これらの返答を英語に直訳すると誤解が生じることがあります。

西洋人からすると、That's difficult. では、答えが Yes か No かわからないし、I'll think about it. では、むしろ承諾の意味にとれます。そこで、日本人の英語学習者はよく、Yes, No を明確にしましょう、と諭されます。しかし、このような曖昧さは日本文化の大切な一面です。むしろ、「難しいですね」や「考えておきます」という言い回しは、拒否の意思表示だという文化の差を、きちんと外国人に伝えておくことの方が大切だと思います。

3. 「おもてなし」って何?

「おもてなし」は、よく hospitality と訳されますが、日本語の意味にはもう少し深い含みがあります。西洋的 hospitality の概念では、例えばホテルのサービスのように、guest (客) の希望に全て応えるのが host (主人〈女性の場合は hostess〉) の役割と考えますが、日本では、例えば茶の湯の席のように、guest は何も希望を述べず、全てを host (主人) に任せます。host は、生花、掛け軸、茶道具、さらには、身振りや言葉を通じて、歓待の気持ちを時に直接的に、時に暗示的に伝えます。guest はその歓待の気持ちを敏感に察知し、感謝の気持ちを表します。このように日本の「おもてなし」は host と guest が一体となって作り出すものです。その意味で、「良いおもてなし」にするためには、日本では、guest と host が強い絆と信頼関係を築くことが大切だと言えます。

ほかに、旅館では、食事の時間や献立などは旅館側が決めます。また、料亭ではよく「お任せ」と言って、guest が板前に献立を任せることがあります。これらもおもてなしの例と言えるでしょう。英語の menu は guest が選ぶ

品のリストで、日本語では「品書」に当たりますが、日本では、その他に料理人が決める「献立」があります。この献立の存在にも、おもてなしと hospitality の差が表れているようです。



著者プロフィール

江口裕之 CEL 英語ソリューションズ最高教育責任者

1957年長崎県生まれ。国立北九州高等専修学校卒業後、プロのミュージシャンとして全国で演奏活動を展開後、通訳・翻訳家に転身。1989年から一貫して通訳案内士の育成に携わる。2001年、東京にCEL英語ソリューションズを設立。2009年よりNHK Eテレ英語教育番組「トラッドジャパン」講師。著書に「新・英語で語る日本事情」(The Japan Times)他多数。音楽CDに「My Good Ol' Songs」(アソルハーモニクス/RADIO DAYS)。

2. 「先輩」ってどんな意味? なぜ名前で呼ばないの?

「先輩」は英語の senior に相当します。日本語では、基本的には自分よりも年上の人を意味しますが、物事を先に着手した人を指すこともあります。先に始めた人は自分よりも知識があるはずで、その人に尊敬の念を込めて「先輩」という呼称を用います。このように、人に呼びかけるのに実名を用いない日本の習慣に違和感を持つ外国人もいるでしょう。

日本は儒教の影響もあって、人間の上下関係を重視する傾向が強く、地位が高い人や年上の人を尊敬することが大切とされます。実名で呼ぶのはお互いに対等の立場であることを示唆するため、目上の人に対しては礼を欠くと思われがちです。これは企業の内部でも同じです。部下が上司を実名で呼ぶことはごく稀、係長、課長、部長、などの役職名で呼ぶのが一般的です。しかし、外の集団に対しては、自分の上司であっても、名前を呼び捨てにする習慣があります。これは、外に対し、自分の集団をへりくだることで、相手に対する敬意を示すためです。

4. 日本人はどうして感情を表に出さないの?

日本人は比較的均質な民族と言えるでしょう。そのせいもあって、コミュニケーションのあり方が高度に発達し、間接的な意思疎通に重きを置くようになりました。例えば、和歌は平安時代に貴族間のコミュニケーションの道具として発達し、また、室町時代には、生花や水墨画など、暗示的なメッセージを伝える表現形式が発達しました。

日本人が間接的な意思疎通を好む理由を神道の影響で考えると面白いようです。神道の神は自然現象と似ていて、その姿は見えず、何かを語ることもありません。私たちは、神からのメッセージを四季折々の自然現象を通じて間接的に読み取るのです。そんな神々とのやりとりが、人間同士の意思疎通にも自然に適用されていったのではと想像できます。

日本人は、直接的で率直な言動を不躰だとか品がないと感じるようです。本当の感情は表に出さず、本音は言わずにしまっておくということが、より成熟した態度だと考える傾向があるようです。

さて、いかがでしたか。「日本人のこころ」については、話が尽きません。興味のある方はぜひ、調べてみてください。

今回は「日本料理」を取り上げましょう。

Words and Phrases

- 1. closely-knit: 緊密な
inconsiderate: 思慮深くない
for the sake of politeness: 丁寧さを重視して
- 2. show one's respect: 敬意を表する
address: ~に呼びかける
offensive: 相手を怒らせる
- 3. hospitality: 歓待、おもてなし
leave~ up to...: ~を...に任せる
strong bonds: 強い絆
mutual trust: 相互信頼
- 4. homogeneous: 均質な
sophisticated: 高度に発達した
indirectness: 間接的なこと
courtesy: 礼儀
refinement: 上品さ
maturity: 成熟